



器材の操作確認を行う泌尿器科医師

## CONTENTS

### 巻頭特集 ダビンチ 導入

- 常備救護班要員任命式、COVMAT 活動紹介 ..... P.4
- 救護班要員研修会に当院の職員が参加しました ..... P.5
- 密着取材! 外科医師の一日 ..... P.6
- 長谷川副院長の母校講演、車椅子ご寄贈 ..... P.7
- 地域医療連携だより ..... P.8 ~
- INFORMATION ..... 裏表紙



#### ～ 受診される患者さまの権利 ～

- 1. 個人の人権を尊重した良質な医療を受ける権利
- 2. プライバシーが保護される権利
- 3. 納得のいく説明と情報提供を受ける権利
- 4. 自らの意思で検査・治療法などを選択、あるいは拒否する権利
- 5. セカンドオピニオンを得る権利

# ダビンチ

# 導

# 入

2022年8月より  
手術支援ロボット「ダビンチ」を  
利用した手術が  
泌尿器科領域から始まります



©intuitive surgical G.K.



当院の泌尿器科医師（左から）日野医師、鎌田医師、千葉部長、木下医師

## 泌尿器科医師 鎌田 修平

### 待ちに待ったダビンチ導入

2022年8月、ついに深谷赤十字病院でダビンチ手術が始まります。ダビンチ手術とは、インテュイティブサージャカル合同会社が販売するda Vinci Surgical Systemを用いた手術のことで、日本では2012年4月に前立腺全摘術においてはじめて認可されました。

ダビンチ手術は、広い括りでは腹腔鏡下手術のひとつです。おなかに穴をあけてポートを立て、炭酸ガスで広げることによって操作腔を確保し、鉗子（かんし）という器具を用いて手術操作を行うのが腹腔鏡手術ですが、従来の腹腔鏡手術では基本的には真っ直ぐの鉗子を使った操作が基本であり、例えるなら「菜箸を持って裁縫をする」ような難しさがありました。

特に、前立腺は骨盤の奥深くにあるため、角度的にも腹腔鏡手術の難易度が非常に高く、腹腔鏡手術全盛の時代においても、多くの医療機関において開腹手術が選択されていました。

### 何が優れているのか

一方、手術支援ロボットであるダビンチを用いることで、その菜箸に関節が備わり、自身の手で動かしているのとはほとんど変わらない感覚で手術操作を行うことができるようになります。患者さんにダビンチをドッキングしてしまえば、その後、術者は患者さんから離れた場所にあるコンソールに座って、ハンドルを指で動かすことで手術を行うことができます。

さらに、手術視野も三次元で見ることができ、さながらVR(virtual reality)機器を装着しているような感覚で手術を行える他、手ブレ補正機能もついているため、より精密な手術操作が可能です。加えて、腹腔鏡手術の大きなメリットのひとつである、炭酸ガスによる気腹によって多少の出血は勝手にとまってしまいますので、開腹手術であれば1000~2000mlの出血が起ることも日常茶飯事の前立腺全摘術でも、100ml未満の出血量におさえることが可能になりました。



©intuitive surgical G.K.

▶カメラアーム（1本）と  
インストゥルメントアーム  
（3本）からなるペーシメント  
カート



©intuitive surgical G.K.

▼精緻な手技を可能にする  
インストゥルメント（鉗子）

### 県北地域唯一の最新鋭機種

ダビンチは、2021年末の時点において世界で約6700台が販売されており、日本でもすでに約450台が稼働しています。ただ、埼玉県ではこれまで埼玉医大総合医療センター（川越）や行田総合病院において導入されているものの、県中部、熊谷市以西の県北部、秩父方面においては1台も導入されていない状況でした。

深谷赤十字病院では、第4世代でフラッグシップモデルにあたる最新鋭のda Vinci Xiを導入しているため、今後は泌尿器科だけでなく、ほかの診療科でもダビンチを用いた手術を行えるよう準備を進めていく予定です。

▼術者（医師）が使用するコントロールとモニターが映し出す術野



©intuitive surgical G.K.

## 手術支援ロボット ダビンチの導入稼働に際して

院長 伊藤博



深谷赤十字病院に漸く手術支援ロボットダビンチが導入、稼働開始の運びとなりました。きっかけは、千葉大学からの泌尿器科医チーム（4名）の派遣です。全員がダビンチの操作資格を持っており、彼らの力を存分に発揮してもらったためにも導入は必須でした。全国の赤十字病院91病院ですでに34施設がダビンチを保有し、病床数400床以上の40病院では32病院、実に80%の赤十字病院が保有している事から、当院でも機会があればと思いつけておりました。6月の内覧会で実際に触る機会を得ましたが、10年以上前に学会場で触った時より動きが格段にスムーズの様な気がしました。手術支援ロボットを使った手術は、泌尿器科領域で初めに保険収載され、産婦人科領域、消化器外科領域へと広がり、鏡視下手術と同様、低侵襲手術への移行は外科系領域での大きな流れとなっております。今回のダビンチ最新機種導入が最終的には患者さんへの貢献となり、地域の皆様に還元できればと期待しております。

## 内覧会 開催しました

6月16日(木)、職員向けダビンチ内覧会が開催され、約200名の参加がありました。医師・看護師などの医療職だけでなく、事務職員も数多く参加し、実際に機器を使っている操作体験を行いました。

### 【ダビンチ操作体験を終えた医師の感想】

- 操作性が良く、思っていたよりスムーズにできた。
- 非常に細かい動きまで綺麗に見えて感動した。



## ダビンチ稼働に向け、職員も動き出しています

### 臨床工学士

臨床工学技術課長 勝野寿人

私たち臨床工学士(以下、CE)は日進月歩で開発・進歩する医療機器を操作保守管理することが業務の1つとして確立されています。この度、当院に最先端の手術支援ロボット(以下、ダビンチ)が導入され、その保守管理に関われることは非常に光栄で、CE冥利に尽きると思っております。

ダビンチ導入に際しては、施設見学を行いノウハウを習得。その後は実機を使用してのセッティングと機器操作の習得、トラブルシューティングの実施と手術室レイアウト調整を行いました。また、安定稼働に向けて、マニュアルの作成と不具合時対応を含めたメンテナンス体制の構築、術中の映像・記録の管理が責務と感じています。

手術前の準備だけではなく、ダビンチを安全に使用できるように手術のサポートを行うことで、手術チームの一員として参加できることを嬉しく思います。

### 手術室看護師

手術室看護係長 根岸京子

ダビンチ導入に際し、手術室看護師の準備としてインテュイティブサージカル合同会社が提供するオンライントレーニングにて、da Vinci Xiサージカルシステムの概要や準備、術中の使用方法、術後の取り扱いに関する内容のビデオを閲覧し学習しました。その後、サージカルシステムの操作方法やドレーピングの仕方、鉗子の取り扱いやトラブルシューティングなど実際の手術で手術室看護師が担当する場面をイメージしながら実践的なトレーニングを実施しました。

これらのトレーニング以外にも器械の洗浄や滅菌方法を学び手術実施までに準備・練習を重ね、泌尿器科医師・麻酔科医師・CE等関係スタッフを交えてのトータルコミュニケーションを2回実施した後、初症例に臨む予定です。



## 常備救護班要員任命式を開催しました

令和4年6月14日(火)に常備救護班要員任命式が執り行われ、今年度は新たに6名(医師1名・看護師長1名・看護師2名・主事1名・薬剤師1名)が任命を受けました。

### 常備救護班とは・・・

日本赤十字社では、災害が発生すると救護班を派遣し、救護所の設置、被災現場や避難所での診療などを行います。来るべき災害に備え、平時より訓練や研修などを実施し、医療救護活動が円滑に行える体制を整えています。医師1名・看護師長1名・看護師2名・薬剤師1名・主事(事務系職員)等2名の計7名を1班としており、当院では3個班を常備しています。



幹部職員と任命を受けた救護班要員

### 救護班要員に任命されて



#### ◆医師(班長)

加藤 正樹



恥ずかしながら、災害といわれても私は東日本大震災など今でもニュースでよく見るものしかすべには思い浮かびません。東日本大震災の時は高校生でした。その時にどんな医療が行われていたの知りませんでした。この度、救護班要員に任命頂き、災害医療に関して少しでも多くの知識と経験を得て、誰かの役に立てるように精進したいと思えます。

#### ◆薬剤師

大須賀 健次



これまでは日赤という組織に在籍していながら、災害時の活動について考えることが正直ほとんどありませんでした。今回この様な機会を頂き、災害時での役割について理解し、行動できるよう学びたいと思えます。ご指導のほど、よろしくお願いたします。

## 埼玉県クラスター対策チーム(COVMAT)

活動に参加して

第二内科部長 宮嶋 玲人

埼玉県は、高齢者施設や医療機関においてクラスターが発生した場合に備え、感染拡大防止を図るため専門家で構成された対策チーム(Corona Virus Mobile Assist Team(COVMAT))を令和2年8月に組織しました。私は組織設立当初からこれに参加し、派遣依頼に応じて計12回出勤しています。

構成メンバーは医師、感染管理認定看護師、保健師、業務調整員となっております。県内福祉施設や療養型医療機関などで1人以上の感染が確認され、拡大のおそれがある場合、出勤要請がかかります。

活動内容は、

- ア 患者等発生施設における入所者や施設職員等の医療情報の収集
- イ 施設内における有症状者のトリージとゾーニング
- ウ 施設内の清掃・消毒方法等に関する助言・支援
- エ 施設管理者に対する今後の接触者等の健康観察における留意点の助言となっております。

行く先々で入院患者、入所者の行動が制限され、ストレスのかかる環境となり、職員が不安を抱えながら対応していることを目の当たりにしました。職員からも感染者が出ており、職員の不足で疲弊している様子もうかがえました。そのような中で各施設に合ったゾーニングや、職員が休める場所の確保を行い、事業が継続できるように努めました。職員が減り、通常より手間のかかる仕事をこなすのは大変ですが、省略したり我流を通したりすることなく、皆が同じように感染対策を行うことが通常に戻る最短の方法です。

今後もCOVMATの活動により地域の感染拡大を防ぎ、皆さんの不安を取り除くよう努めて参ります。最後に、このように院外活動ができるのは病院スタッフのご協力のおかげです。



▲施設で対応にあたる宮嶋医師 (写真一番左)

# 救護班要員研修会に 当院の職員が参加しました — 社会課 —

日本赤十字社の救護活動は、災害が発生し、救護活動が必要と判断される場合や、被災地となった都道府県等から要請があった場合に、その都道府県にある支部を主体として実施します。支部は、ただちに救護班等を被災地に派遣し、他の救護団体と協力しながら救護所の設置、被災現場や避難所での診療、こころのケア活動などを行います。

これらの活動を円滑に、かつ効果的に実施するために必要な技術や知識を習得し、救護班要員としての更なる質的向上を図ることを目的として、日本赤十字社埼玉県支部が中心となり、皆野町のホテル「いこの村ヘリテイジ美の山」の協力のもと毎年開催しています。

新型コロナウイルス感染症の流行により、一時開催中止となっていましたが、感染に留意し、感染管理責任者（医師）を配置し、研修会受講者及びスタッフ全員の徹底した感染管理のうえで令和4年6月22日～24日の3日間にわたり開催することができました。

ここで、その研修会の一部をご紹介します。



▲基礎行動



▲救護所設営訓練



▲テントを立てた後の救護所内設営



▲トリアージの実習



▲職種別、無線・衛星携帯電話の使用実習



▲グループワーク



▲3日間の集大成、総合演習



## 3日間の研修に参加して

6階北病棟師長 茂木 えり子

救護班要員として任命されたものの、救護に関する研修には一度も参加したことがなく、実際の災害現場での救護には心配がありました。今回研修に参加したことで、災害救護において必要な知識・実技を習得できただけでなく、コミュニケーションの大切さ、多職種連携の大切さも痛感しました。この経験を自部署にも還元していきたいと思えます。



密着取材!

# 外科医師の1日

～当院のスタッフの「とある1日」をご紹介します～



ニッタ ヒロシ  
**新田 宙**  
外科医師  
(第一外科部長)

当院の外科診療について…

消化管外科(食道・胃・小腸・大腸)、肝胆膵外科などの領域の手術だけでなく、検査や外科手術以外の治療も幅広く行っています。胃がん、大腸がんや食道がんに関しては、患者さんの負担の低い腹腔鏡手術にも精力的に取り組んでいます。また、今秋からは手術支援ロボット(ダビンチ)を用いた手術を開始する予定です。

## 手術のある 火曜日・金曜日

### 外科系カンファレンスに参加

カンファレンスにおいては、個々の症例の検討だけでなく、研修医に対する指導も行います。



### 手術前病棟回診

当日手術を行う患者さんの元へ直接赴き、会話等を通して状態を確認します。



### 腹腔鏡下手術を実施

この日の午前中は、胆石症の患者さんに対し、低侵襲で入院期間も短い腹腔鏡下胆嚢切除術を行い、午後には、胃がんの患者さんに腹腔鏡下噴門側胃切除術を行いました。

肝胆膵系のがんや食道がんの手術も行っています。手術時間が8時間を超えることも珍しくありません。



### 新田先生から今後の展望について

日本肝胆膵外科学会高度技能指導医・日本内視鏡外科学会技術認定医として、最先端の外科手術を提供できるよう努力を続けたいと考えています。また今秋には、手術支援ロボット(ダビンチ)を用いた胃がん手術の一例目を行う予定ですが、今後はダビンチ手術の対象を膵臓腫瘍や食道がんにも広げていければと思っています。

## 外来のある 水曜日・木曜日

### 外科外来にて診察

外来では、術後の経過観察や、外来化学療法室を利用した抗がん剤治療を行っています。



患者さんからの声優しく親切で気さくな先生なので、安心して受診することができます。

### ERCP\*検査を実施

口から十二指腸まで内視鏡を挿入し、更にその先端から膵管・胆管の中にカテーテルを入れ、造影剤を注入した後X線撮影する、ERCP検査を行いました。ERCP検査に引き続き、悪性胆道狭窄に対するステントの挿入や結石の除去といった治療を行っています。



\* ERCP:内視鏡的逆行性胆管膵管造影

### チーム医療への取り組み

チーム医療への取り組みとして、毎月3回開催されるNST\*委員会にも参加しています。ここでは、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・事務等様々な職種が集まり、それぞれの専門知識を活かして、栄養管理が必要な患者さんの栄養状態を良くするためのプランを考えています。

\* NST: 栄養サポートチーム (Nutrition Support Team) の略称



# 医療を志す高校生へメッセージ

～長谷川副院長、母校「熊谷高校」での講話を実施～

6月13日（月）、当院の長谷川修一副院長が、母校である埼玉県立熊谷高等学校を訪問し、医学部など医療系に進学を希望する生徒たち20数名に講話を行いました。これは同校からの希望があったことで実現したイベントです。

長谷川副院長は、地域における当院の役割や救急医療の実際、特に専門領域である循環器疾患の病態、造影検査やカテーテル治療のこと、突然の胸痛で倒れた人に遭った場合の初期救命の大切さなどを高校生に伝えました。



講話の最後には参加者に「医療者として人に感謝されることは何事にも代えがたい喜びであり、医師として仕事を続けてきたモチベーションになっている」「高校生の皆さんには何か必死に取り組んで欲しい」とメッセージを贈りました。

高校生からは「医学部に入ったあとの学生生活について」「先生の高校生ごろの学習習慣」など具体的な質問が寄せられました。

県北部は医療環境が整っていない地域であり、地元で医師を志す高校生に対し、医療者がその仕事の重要性や、やり甲斐を伝える非常によい機会となりました。



## 株式会社渋沢様より 車椅子をご寄贈いただきました



6月28日（火）、株式会社渋沢（本社：本庄市）様より、ノーパンクタイヤ車椅子10台をご寄贈いただきました。渋沢様からのご寄贈は、昨年につき2回目となります。

当日は坂本社長が当院にお見えになり、直接お届けいただきました。また、後日行われた贈呈式では、渋澤和廣会長と当院の伊藤院長で和やかな歓談が交わされました。

車椅子は、当院をご利用される方に使用していただく予定です。誠にありがとうございました。



渋澤和廣会長と伊藤院長



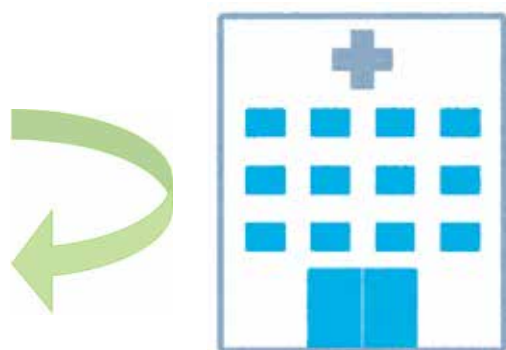
(写真左から)  
関口様、坂本社長、丸山事務部長



ご寄贈いただいた車椅子

# 地域医療連携だより

## 深谷赤十字病院は地域との医療連携に努めています。



当院は、初期診療や慢性の継続診療などは、「かかりつけ医」の先生に診ていただき、専門的な検査や診察、また入院が必要な治療は病院が受け入れるという役割分担を行っており、地域の皆様が継続して適切な医療が受けられるような体制を維持しています。

毎号、医療連携にご協力いただいている医療機関を順次ご紹介しています。

### 上野医院

住 所 〒366-0810 深谷市宿根706-1  
電 話 048-573-7310  
院 長 上野 達雄  
医 師 上野 学  
診 療 科 内科、小児科、呼吸器内科、アレルギー科  
休 診 日 日曜、祝日、水曜、土曜午後  
診 療 時 間 午前9時～午後1時 午後3時～6時



#### 院長先生からのメッセージ

当院は生活習慣病や感染症の治療など内科全般、小児一般診療の他に、呼吸器疾患・アレルギー疾患など専門診療を行っております。各種予防接種、健康診断も実施しています。地域の皆様のため、安心感のある医療を提供できる医院づくりをスタッフ一同目指しております。

### はしもとクリニック

住 所 〒366-0824 深谷市西島町2-2-2  
電 話 048-551-8410  
院 長 橋本 信次  
副 院 長 橋本 陽子  
診 療 科 内科、外科、消化器内科、血液内科  
休 診 日 日曜、祝日、木曜、土曜午後  
診 療 時 間 午前9時～12時 午後3時～6時



#### 院長先生からのメッセージ

地元深谷に開院して3年が経過しました。軽症な病気から専門的な医療を要する病気まで幅広い診療を行っております。地域の皆様に安心して受診していただき、相談しやすいクリニック、ご本人やご家族にもわかりやすい説明のできるクリニックを目指しております。



## <地域の皆様へのご案内>

### 当院を受診の際は、紹介状をご持参ください。

当院受診の際（初診時）は、他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）をご持参いただくことをお勧めします。

**紹介状（診療情報提供書）をご持参いただいた場合は、国が定める初診時選定療養費（医科 5,500 円・歯科 3,300 円）のご負担がなくなります。**



### 鳥塚歯科医院

住 所 〒369-1202 大里郡寄居町桜沢1095-5  
電 話 048-581-1300  
院 長 清水 敬  
診 療 科 歯科  
休 診 日 日曜、祝日、木曜  
診 療 時 間 午前9時～12時 午後2時～6時30分  
※土曜午後は5時まで



#### 院長先生からのメッセージ

当院では通院困難な方に訪問診療をおこなっております。また、お子さまから年配の方までご家族の皆様が安心して受診できる医療機関を目指し、これからも地域医療に貢献できるように努力していきたいと思っております。

### ヒデ歯科クリニック

住 所 〒360-0816 熊谷市石原1023-5  
電 話 048-522-8241  
院 長 佐藤 秀雄  
診 療 科 歯科、矯正歯科、小児歯科、口腔外科  
休 診 日 日曜、祝日、木曜  
診 療 時 間 午前9時～午後1時 午後2時～6時



#### 院長先生からのメッセージ

0歳児のお子さまから、ご高齢の方への訪問歯科まで、地域拠点となる総合歯科を目指しております。虫歯や歯周病を防ぐクリーニングは個室で行い、安心して通院していただけるよう、親切な対応を心がけております。矯正治療・マタニティ歯科・口臭等まずはお気軽にご相談ください。

## 親子ふれあい病院体験を開催します

参加者の皆さまに大変ご好評いただいた「親子ふれあい病院体験」を、3年ぶりに開催することになりました！小学生とその保護者の方が、医療・看護・災害救護の体験をしていただくことができる企画です。皆さまのご参加をお待ちしております！

〈日 時〉令和4年10月22日（土）

〈体験内容〉

- ①医療体験：手術時の結紮（糸結び）体験、超音波検査の見学
- ②看護体験：沐浴の体験、救命処置（胸骨圧迫とAED操作）、手洗い完成度体験
- ③災害学習：屋上ヘリポートの見学、防災食の試食（α米とレトルト保存食など）
- ④その他：管理栄養士による「食事と健康」についての講話、白衣・救護服を着用しての記念撮影

詳しくは  
当院HPを  
ご確認ください

【前回（令和元年10月）開催時の様子】



結紮（けっさつ）体験



エコ体験

がん患者さんと  
ご家族のための

## 2022年度 チューリップサロンのご案内



当院に通院していない方でもご参加いただけます。申し込みも不要です。みなさんの参加をお待ちしております。

誰かに話を  
聞いてもらいたい

悩んでいるのは  
自分だけじゃ  
ないんだね。

他の患者さんや  
ご家族はどんな風に  
過ごしているのかな？



開催日：毎月第3木曜日 14時30分～（途中参加・退出可能です）  
場所：外来棟1階 相談支援センター（売店脇の通路を奥に進んでください）  
問い合わせ：048-571-1511（代） 多田（6287）

	内 容	担 当
9/15	抗がん剤治療に関するお話	尾川（がん化学療法看護認定看護師）
10/20	人生会議～もしもの時の話し合い	多田（がん看護専門看護師）
11/17	かわいい小物作り	都木（看護係長）

12月以降の日程は次号以降でお知らせいたします

### 深谷赤十字病院の理念と基本方針

#### 理 念

人道・博愛の赤十字精神のもと、地域の皆様の健康を守り、信頼される医療を提供します

- 1 医療人として生命倫理を最大限尊重します
- 2 医療の質の向上に努めます
- 3 患者中心の医療を行います
- 4 地域との医療連携に努めます
- 5 災害救護と国際活動に貢献します
- 6 健全経営による働き甲斐のある病院を目指します

#### 基本方針

### 深谷赤十字病院臨床研修の理念と基本方針

#### 理 念

医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁にかかわる負傷または疾病に適切に対応できる診療能力を身につける。

- 1 基本的診療能力の習得  
臨床医として将来専門とする分野に関わらず必要な基本的診療能力を習得する。
- 2 患者の立場に立った医療の実践  
医師として患者から人間としても信頼される思いやりの心を持った謙虚な医療人となり、患者の立場に立った医療を実践する。
- 3 チーム医療の実践  
チーム医療の大切さを理解して病院内の他職種と連携を密にしてコミュニケーションを取りながら安全な医療を提供する。
- 4 地域医療に貢献  
地域の中核病院としての役割を理解し、地域医療に関心を持ち、地域医療の現場を経験する。
- 5 赤十字病院の責務や理解  
赤十字病院として公的病院の責務や災害時における医療救護活動を理解する。
- 6 生涯学習の継続  
質の高い医療を提供できるよう、生涯を通じて教育・学習を続ける態度と習慣を実践し、医療技術の習得に努める。また、後輩を育成することによって自らが学ぶ姿勢を有する。

#### 基本方針



深谷赤十字病院

日本赤十字社

〒366-0052 深谷市上柴町西5丁目8番地1  
TEL 048-571-1511（代）  
<http://www.fukaya.jrc.or.jp/>

Vol.72 令和4年8月9日発行  
編集発行：深谷赤十字病院  
広報・公聴委員会